

第 2 回

愛 知 大 学

同窓会奨励賞授与式



平成十六年三月六日（土）

於 愛知大学 豊橋校舎

記念会館 三階 小講堂

一、開式

一、愛知大学後援会長あいさつ

一、愛知大学副学長（後援会担当）あいさつ

一、課外活動奨励賞選考結果の報告

一、課外活動奨励賞授与

一、同窓会奨励賞選考結果の報告（広報委員長）

一、同窓会奨励賞授与

一、愛知大学長激励の辞

一、愛知大学同窓会長激励の辞

一、受賞者代表謝辞

一、閉式

一、激励パーティー（逍遙館）

主 催：愛知大学 同窓会

最優秀奨励賞

松浦元男氏

昭35年法経・経済卒

** 略 歴 **

1935年 名古屋市生れ。
1965年 樹研工業株式会社を設立。
現在 樹研工業株式会社代表取締役社長。

** 推薦要旨 **

松浦氏は、大学卒業後5年間、モーレツ社員として包装用やビニールハウス用のビニールなどを開発する地元の化学製品メーカーでの勤務を経て、1965年に独立し樹研工業を設立しました。

樹研工業はプラスチック製小型精密部品製造販売の会社で、松浦氏の将来を展望した経営理念（技と哲学）のもとに、世界トップクラスのプラスチック小型精密機械を製作する会社として成長をなしとげました。

1998年には10万分の1グラムの歯車（パウダーギア）の開発に成功し業界での注目を集めました。更に2002年には100万分の1グラムの歯車を発表し、世界を驚かせました。



桜井智章氏

昭55年法経・経営卒

** 略 歴 **

1986年 愛知大学硬式野球部監督就任。
2003年 愛知大学硬式野球部を36年ぶりにリーグ優勝に導く。
2004年 18年間の監督生活を勇退。

** 推薦要旨 **

何と言っても硬式野球部を36年ぶりにリーグ優勝に導いた功績と下向きな努力は大いに賞賛されるべきだと思います。

全日本野球選手権では、初戦を突破し、2回戦で惜敗しましたが、この間マスコミを通じ愛知大学の名誉を大いに高めることができました。

桜井監督は大学専任の監督ではないので、別に職業を持たないと生活ができませんが、監督という立場では殆ど仕事をする時間も無く、長い間ご本人はもちろんのこと家庭まで犠牲にして野球一筋に精進されてきました。



西森由紀子氏

平12年法卒

** 略 歴 **

2000年 コサキ株式会社入社。
2001年 コサキ株式会社退社。
2003年 司法試験合格。

** 推薦要旨 **

西森由紀子さんは、本学法学部を卒業され一時職業に就かれましたが、幼少からの夢を捨てがたく、今年度司法試験（今回で2回目の挑戦）を受験し、見事最終試験に合格されました。

彼女は、小学校時代から一貫して弁護士への夢を持ち続け、「女性が一生を預けられる職業」として捉え、今回見事に夢を実現されたわけです。司法試験は、資格試験の中でも最も難関とされており、本人の強い意志と努力があってこそ成し得たことと思います。

愛知大学卒業生として賛美すべき出来事であり、女性のみならず愛知大学同窓生、在学生に勇気と希望を与えてくれました。



優秀奨励賞

尾 関 忠 雄 氏

昭 45 年文・哲学卒

** 略 歴 **

1991 年 尾関学園高等学校長に就任。
1997 年 校長を辞任。その間、愛知大学星晨会副会長に就任。
現 在 学校法人尾関学園副理事長、美里幼稚園長、中京大学
非常勤講師（ドイツ語）に就く。中部ペンクラブ理事。



** 推薦要旨 **

「尾関忠雄文学全集」全 7 巻を完結し、風媒社より刊行しました。本文学全集第 1 巻より 6 巻までは小説集で、純文学に属し、反小説〈アンチロマン〉を所収。第 7 巻は詩・戯曲・評論・エッセイ集を所収。所収作品総数 143 篇。初出は「愛大文学」「愛大学生論叢」「北斗」等の同人誌に発表し、35 年間の集大成。日本文学において、いわゆる同人誌作家で文学全集全 7 巻を完結刊行したのは稀有なことだと思えます。

奨励賞

杉 浦 兼 次 氏

昭 36 年文・文学卒

** 略 歴 **

1962 年 株式会社萬年社退社。
1999 年 1984 年から愛知県立高等学校教諭を勤め退職。
2002 年 岡崎中日文化センター講師となり今日に至る。



** 推薦要旨 **

杉浦氏は昭和 43 年頃、岡崎・豊橋を郷土とする俳人・荒川同楽（正岡子規の門人）に関心をもち、研究をつづけ、その成果の一部を中日新聞夕刊の文化欄に発表されました。この論稿は大きな反響を生み、三河地方の人などに、荒川同楽に関心をいだかせることになりました。昭和 50 年には、講談社発行の『子規全集』（全 12 巻）にも協力されています。

このように、郷土俳人発掘から始まった杉浦氏の文学研究は、さらに進んで文化研究へと幅広くひろげられ、郷土研究へと至っております。

稲 吉 正 道 氏

昭 45 年法経・経営卒

** 略 歴 **

1970 年 愛知県警へ入署。
、 現 在 愛知警察学校主任教官。

** 推薦要旨 **

稲吉氏は大学一年次に『全日本学生剣道選手権』で準優勝という輝かしい成果を上げ、当時、全日本学生剣道界でも大きな話題となると同時に、母校愛知大学の名を全国にも知らしめました。

県警に就職された後も全日本選手権三位、その後準優勝と、おおいに活躍され、'85 年には全日本剣道連盟からの派遣でフランスナショナルチームを指導するという栄誉にも輝き、剣道を通して日本の文化を世界に広めるための惜しみない努力をされました。

6 年前不幸にして病に倒れ右半身不随の後遺症が残ってしまわれましたが、剣道で鍛えた不屈の精神力でリハビリを重ね、現在八段を目指しております。



李春利ゼミナール

愛知大学 経済学部

** 推薦要旨 **

李ゼミは「中国の経済発展と国際環境」を主要研究テーマにし、近年「世界の工場」とよばれる中国製造業の国際競争力、WTO加盟、産業空洞化などタイムリーな経済問題に対日本の視点で解明していくことを趣旨にしています。

このゼミの最大の特徴は、統一論題のもとでゼミ生の単位レポートをベースに、卒業生の卒論要旨や留学・就職体験記、サークル活動、紀行文、活動スナップなどを加え、特集の形で「ゼミ論集」を毎年1回継続的に発行していることです。この論集は、ゼミ生の自主運営による「編集委員会」が、編集・構成、グラフィック・デザインなど各自の智恵や特技を結集した、手作りの1冊です。これらの体験は、大学時代の充実した美しい思い出と何にも替えがたい財産となっています。

また、現役とOB会「風鈴会」の共催による「餃子パーティ」を毎年開催し、先輩方の社会体験を後輩が真剣に聞いている姿にゼミ本来の成果を見る思いがします。

以上のような大変ユニークで意欲的なゼミ活動を通して、各自の人生をシュミレートしたり、学問の真髄に触れたり、ゼミ生相互の研鑽により、ますます「やる気」も高揚し人間総合能力も高まっています。



愛知大学同窓会奨励賞授与取扱要領

目 的

本取扱要領は、本会会員（滬友会、推薦交友を含む。）並びに愛知大学関係者（教職員、在学生等）が社会・文化・学術・芸術・スポーツ等の分野に於いて活躍し、本会又は大学の名誉を高め、かつその分野の発展に寄与した個人又は団体に対し、その労をねぎらうため、愛知大学同窓会（以下「同窓会」という。）が「同窓会奨励賞」を授与するために定める。

推 薦

候補者の推薦（自薦を含む）は、毎年12月20日までに社会・文化・学術・芸術・スポーツ等の分野で活躍のあった個人又は団体について、活躍の内容をまとめた推薦書（800字程度）を同窓会会長宛に提出する。但し、叙勲及び功労賞等の授賞者は対象から除くものとする。

選 考

会員から推薦のあった個人及び団体について、同窓会広報委員会で選考し、同窓会常任理事会で決定する。

表 彰

表彰は、会員から推薦のあった個人及び団体に対し、選考の結果、個人にあっては表彰状並びに副賞（記念品）、団体にあっては表彰状並びに副賞（奨励金）を授与する。

表彰の種類

表彰の種類は、個人、団体とも次のとおりとする。

- A 最優秀奨励賞（全国レベルでの活躍）
 - 個 人……記念品
 - 団 体……奨励金 10万円
- B 優秀奨励賞（地域レベルでの活躍）
 - 個 人……記念品
 - 団 体……奨励金 5万円
- C 奨励賞（一般的な活躍）
 - 個 人……記念品
 - 団 体……奨励金 3万円

